

●2016年10月

- 2016/10/28 錦秋の御嶽山麓
- 2016/10/27 穂高のネパール料理店
- 2016/10/22 豊穰の秋
- 2016/10/22 珍客来訪
- 2016/10/12 SSB を告発, CIAA(6)
- 2016/10/11 SSB を告発, CIAA(5)
- 2016/10/10 SSB を告発, CIAA(4)
- 2016/10/09 SSB を告発, CIAA(3)
- 2016/10/08 SSB を告発, CIAA(2)
- 2016/10/07 SSB を告発, CIAA(1)
- 2016/10/02 HMIHS 法案撤回, ゴビンダ医師ハンストを受け

錦秋の御嶽山麓

10月24～26日、木曾御嶽山の山麓を、木曾村～開田高原～日和田高原～濁河温泉と、2/3ほど回ってきた。高原や周辺の山々は一面紅葉に彩られ、それを前景に、雄大な御嶽や乗鞍の高峰を望むことが出来た。美しい風景だが、交通の便は良くはなく、廃屋や耕作放棄地が目についた。

近代化以前、明治・大正のころともなると、この地方の生活はいまよりはるかに厳しかったのだろう。山本茂実『あゝ野麦峠』(1968年)で知られる野麦峠にも行ってきたが、改良舗装されているとはいえ長く険しい山道であり、車であっても越えるのに難儀した。その難路——改良以前の山道——を、少女たちが女工として働くため徒歩で越えていった。艱難辛苦のほどが忍ばれる。



■御嶽山(木曾温泉より)



■野麦集落



■野麦集落の古民家



■野麦峠「ああ飛騨が見える」碑

[参照]

[映画「あゝ野麦峠」予告編](#)

[ラジオ名作劇場「あゝ野麦峠」\(再\)](#)

[山本茂実『あゝ野麦峠 ある製糸工女哀史』角川文庫](#)

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/28 at 19:25

カテゴリー: [自然](#), [文化](#), [旅行](#)

Tagged with [野麦峠](#), [飛騨](#), [御嶽](#), [木曾](#)

穂高のネパール料理店

穂高駅のすぐ近く、穂高神社の前の鳥居横に[ネパール料理店クリシュナ](#)がある。良い立地と値付け。繁盛しているのではないかと。今回は入らなかったが、次の機会には昼食か夕食をいただいてみたいと思っている。



■[クリシュナ HP](#)／鳥居横のクリシュナ

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/27 at 19:02

カテゴリ: [ネパール](#), [文化](#), [旅行](#)

Tagged with [ネパール料理](#), [穂高](#)

豊穣の秋

憂愁の秋は、しかし稔の秋でもある。豊穣を祝う祭りが、近くで催されていた。



谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/22 at 19:18

カテゴリ: [文化](#)

Tagged with [祭り](#)

珍客来訪

憂愁の秋、わがアパートに珍客来訪。農山村部では、おなじみかもしれないが、この虫の名も生態も、私には全く分からない。どこから、何のために、こんな人工的コンクリート・ジャングルにやってきたのだろう？ ひとりぼっちで、、、



■ベランダの珍客

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/22 at 09:46

カテゴリー: [自然](#), [文化](#)

Tagged with [都市化](#), [近代化](#)

SSB を告発, CIAA(6)

6. インド謀略説

ネパールで紛争や権力闘争が激しくなると、ほぼ例外なく、黒幕インドの謀略や介入が取りざたされる。今回も、カルキ CIAA 委員長の背後にはインドがいて、彼を通してインドがネパール政治をインド国益に沿うように動かしている、と見る人が少なくない。たとえば、M・パウダヤルは次のように述べている(以下、要旨)。

▼マハビル・パウダヤル「ネパールの大乱戦」、リパブリカ、2016年10月8日(*1)

CIAA は、カナク・マニ・デグジト、ゴビンダ・KC 医師、SSB などに圧力をかけたり「調査」をしたりしているが、これはカルキ委員長個人というよりは、むしろ彼の背後に控えているインドの意向を受けたものだ。

そもそもロックマン・シン・カルキの CIAA 委員長任命(2013年5月)は、インドの提案だった。カルキは、2006年人民運動の弾圧に関与したとしてラヤマジ委員会に告発されていた。そのため、ネパールではカルキの CIAA 委員長任命には反対が強く、ヤダブ大統領も反対の立場だったが、それをインド側がムカルジー大統領や在ネ印大使館さらには情報機関をも動員して強引に押し切り、任命させたのだ。

そのインドをバックにするカルキ委員長に歯向かうと、どうなるか？ カルキ委員長任命に真っ向から反対し、またインドによる経済封鎖をも厳しく批判したカナク・マニ・デグジトは、CIAA に逮捕・勾留されてしまった。

政党や議員も面と向かって抵抗することはできない。なぜなら、どの政党や議員も、ほぼ例外なく汚職・腐敗まみれであり、関係資料を CIAA に握られているからである。CIAA に歯向かえば、告発され、仕返しされてしまう。

CIAA との闘いは、結局はインドとの闘いなのだ。「潔癖に行動し、他国にへつらったことのない人々のみが、CIAA 委員長を批判することが出来る。」



■CIAA FB より

*1 Mahabir Paudyal, "Battle royal in Nepal," Republica, October 8, 2016

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/12 at 19:32

カテゴリー: [インド](#), [政党](#), [政治](#)

Tagged with [CIAA](#), [腐敗](#), [NGO](#), [SSB](#), [汚職](#)

SSB を告発, CIAA(5)

5. カンチプル社説「学界恐喝」

CIAA による SSB 告発については、カンチプルも 9 月 27 日付社説「学界恐喝」において、厳しく批判した。この社説は、9 月 28 日付ネパリタイムズに英訳転載されている。要旨は以下のとおり。

▼「学界恐喝」(ネパリタイムズ 9 月 28 日*1)

CIAA が、またもや権限を逸脱した。今回は、「社会科学バハ(SSB)」と「社会的対話アソシエーション(ASD)」に対する、根拠なき「不正」告発だ。

それは、CIAA が他の組織や個人を狩り立ててきたやり方と同じだ。今回の告発目的は、あたかも彼らが学界において獲得してきた信用や尊敬を傷つけること、それ自体であるかのようだ。

CIAA には、私的機関や非政府組織を調査する権限は与えられていない。憲法が CIAA に認めているのは、官憲の腐敗を調査する権限だけだ。NGO の調査が必要なら、それを行う機関は「社会福祉委員会(SWC)」である。

ところが、CIAA は、憲法を平然と無視し、NGO や銀行や他の私的機関の活動を調査してきた。それは、SSB や ASD に対する糾弾に見られるように、偏見に満ちたものである。CIAA には、援助を得て学術振興を図る学術機関の活動に介入する権限は、ない。

CIAA は、ASD や SSB の文書を恣意的に解釈し、告発した。重要な国家機関たる CIAA が、このような民主主義に反する行為をしていることは問題だ。CIAA は謝罪し、そうした行為を繰り返さないことを約束すべきである。



■ CIAA・FB

*1 “Blackmailing academia(Editorial in Kantipur, 27 September),” Nepali Times, September 28th, 2016

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/11 at 19:37

カテゴリ: [政治](#), [文化](#), [民主主義](#)

Tagged with [CIAA](#), [NGO](#), [SSB](#), [学問の自由](#)

SSB を告発, CIAA(4)

4. 英国ネパール学術会議の抗議声明

CIAAによるSSB告発については、「英国ネパール学術会議(Britain–Nepal Academic Council: BNAC)」も、これを厳しく批判する抗議声明(*1)を出している。

BNACは、2000年5月2日、ロンドンで設立された。歴代議長は、Surya Subedi(2000–2009), Michael Hutt(2009–2014), David Gellner(2014–現在)。比較的新しい組織だが、会員には著名なネパール・南アジア研究者が多数名を連れ、講演会、ワークショップ、出版など活発に活動しており、この4月にも「CIAAによるジャーナリスト、カナク・マニ・デグジト逮捕に関する声明」(2016年4月27日)を出している(*2)。そのBNACが今回発表した抗議声明の概要は、以下の通り。

▼「CIAAと、そのSSBおよびASD調査報告に関する声明」2016年10月1日(*1)

CIAAが、社会福祉委員会(Social Welfare Council)に対し、SSBとASDの調査を要請したこと(Himalayan Times, 25 Sep. 2016)につき、BNACは、世界各地のネパール研究者とともに、深い憂慮の念を表明する。

(1)SSBは、学術交流をはじめとするその優れた諸活動によりネパールの社会科学の発展に大きく寄与してきた。国際的研究諸機関も、SSBとの連携を求めてきた。

(2)SSBの活動目的は、内外の研究者の連携・協力関係の促進であり、貧困救済など具体的な事業実施を目的とする他のNGOとは異なる。支出の多くが研究費や会議費となるのは、当然。しかも、SSB収入の多くは、参加者や連携組織からの寄付金である。

(3)ASDは、SSBの活動の一つであり、別個のNGOではない。

(4)CIAAは、カンチプル社説(9月28日)などでも、管轄権逸脱を批判されている。

(5)SSBと協力し様々なプログラムを実施してきたが、SSBの経費支出には何の不正もなかった。SSB会計は、十分に信頼できるものである。

[署名／賛同]

Executive Committee members of the Britain–Nepal Academic Council:

David Gellner (Chair), Michael Hutt ほか 12 名

Other members of the BNAC, and non–members based in the UK:

Louise Brown, Lionel Caplan ほか 15 名

Other academics, not members of the BNAC and not based in the UK, who wish to have their names associated with this statement:

Tatsuro Fujikura, Katsuo Nawa ほか 64 名



*1 “Statement on the CIAA and reports on investigation of Social Science Baha (SSB) and Alliance for Social Dialogue (ASD),” The Britain–Nepal Academic Council (BNAC), 1st October 2016, <http://bnac.ac.uk/statements/>

*2 “Statement on the arrest by Nepal’s Commission for the Investigation of the Abuse of Authority of Journalist Kanak Mani Dixit,” The Britain–Nepal Academic Council (BNAC), 27th April 2016, <http://bnac.ac.uk/statements/>

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/10 at 19:18

カテゴリ: [教育](#), [文化](#), [民主主義](#)

Tagged with [BNAC](#), [CIAA](#), [NGO](#), [SSB](#)

SSB を告発, CIAA(3)

3. SSB の反論

CIAA による告発報道発表に対し, SSB は全面否定の反論声明を発表した。「職権乱用調査委員会の報道発表に関する社会科学バハの声明」(日付なし, 2016 年 10 月 8 日閲覧 *1)。要旨は以下の通り。

(1) 正規の NGO 登録

・SSB は, 2007 年 1 月 15 日ラリトプル郡役所登録, 以後, 毎年更新。また, 社会福祉委員会にも登録し, 毎年更新。国税局には 2007 年 1 月 28 日登録。

・ASD は独立組織ではなく、SSB が 2007 年以降運営してきた SSB の事業。これについても、あらかじめ法令に基づき認可を得ており、それを証明する社会福祉委員会の諸文書も取得している。

(2)裏付けなしの曲解発表

・CIAA は、一度も SSB から聴取していない。もっぱら社会福祉委員会提出の SSB 文書を利用し、支出等について誤った解釈をして、これを発表した。

(3)管轄権の逸脱

・CIAA は、あたかも裁判所であるかのように裁決し、報道発表をした。これは、憲法や他の法令に違反する。こうした CIAA の悪意と偏見による行為は、管轄権の逸脱である。

(4)SSB 事業の合法性と正当性

・SSB は法に基づき設置・運営されており、法に基づく調査であれば、協力を惜しまない。

・SSB の事業目的: 1)内外の諸機関と協力しネパール人研究者の能力向上を図ること, 2)整備された社会科学図書館の設置・運営, 3)シンクタンクとして社会科学の調査・研究・教育や学術交流を促進, 4)討論, 対話, 交流を通して政策立案・分析に寄与。

・SSB は、学術機関として、多元社会における法の支配, 立憲主義, 民主主義, 良い統治, 包摂, 説明責任の向上を図っている。



*1 “Statement by Social Science Baha on the press release issued by the Commission for Investigation of Abuse of Authority,” <http://www.soscbaha.org/news/news-blog/878-statement.html>

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/09 at 19:24

カテゴリ: [教育](#), [文化](#), [民主主義](#)

Tagged with [CIAA](#), [SSB](#)

SSB を告発, CIAA(2)

2. CIAA による告発

CIAA の 9 月 25 日発表によれば, SSB とその傘下の ASD の不正・不法行為は, 以下の通り。

[不正の概要](CIAA 発表)

- ・SSB には, 2002 年設立以降, 4 億 7 千 910 万ルピーの収入があった。
- ・SSB と ASD は, この 5 年間で, 2 億 9 千万ルピーを支出。
- ・この支出の多くは, SSB・ASD 関係者への報酬, 旅費, ホテル使用料, ピクニック経費, 飲食代などに当てられた。
- ・「社会福祉委員会」は, SSB のこうした事業活動を適切に監査していない。
- ・ASD は無登録で, 不法に NGO 事業を実施。

CIAA は、これらの不正・不法行為につき、ラリトプル郡役所、社会福祉委員会等の関係当局に文書をもって通告し、調査を要請した。

以上が、メディアの伝える CIAA 発表の概要だが、それは、要するに、多額の支援金や寄付金を集めながら、それを本来の目的に使わず、お手盛り報酬や飲み食い、遊興に浪費してきた、という告発である。

ネパールにおいて、こうした告発は世間の受けが良い。途上国のネパールには、外国援助が大量に流れ込み、さまざまな事業が実施されているが、一般にアカウンタビリティや経済合理性に甘く、不正や腐敗がはびこってきた。ネパール庶民は、利権化した様々な援助事業を、日々、目の当たりにしているので、CIAA のような監査機関が大胆にそこに切り込めば、拍手喝采、頑張れ、ということになりがちなのである。

では、今回の CIAA による SSB 告発は、どうか？ SSB や ASD は、自己目的化した利権組織なのであろうか？



■MC レグミ・レクチャー案内

1 “CIAA seeks action against Social Science Baha, Alliance for Social Dialogue,” The Himalayan Times, September 25, 2016

*2 “Social Science Baha claims CIAA misinterpreted facts,” Republica, October 1, 2016

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/08 at 16:42

カテゴリー: [団体](#), [教育](#), [文化](#)

Tagged with [CIAA](#), [SSB](#)

SSB を告発, CIAA(1)

CIAA(職権乱用調査委員会)が、今度は「社会科学バハ(Social Science Baha: SSB)」と、その傘下組織とされる「社会対話アライアンス(Alliance for Social Dialogue: ASD)」の調査・告発に着手した。



■SSB(同 FB より)

1. 社会科学バハ(SSB)

SSB(社会科学バハ)は、バハ HP によると、2002 年 1 月 1 日、社会科学図書館の開設を主目的として、ヒマール・アソシエーションの支援の下に設置された。その後、事業を以下の分野にも拡大した。

- ・SSB 図書館:蔵書約 2 万冊, オンラインデータベース提供
- ・現代社会問題集中研究コース(大学院レベル)開設:2009 年で終了

- ・講義, 討論会, ワークショップ等の開催:「MC レグミ・レクチャー」, 「バハ・レクチャー」など
- ・社会科学関係書籍の刊行
- ・調査研究の実施

SSB は 2007 年 1 月 15 日, 独立の組織 (NGO) として政府 (ラリトプル郡役所) に登録し, 「社会福祉委員会 (Social Welfare Council) がそれを認可した。以後, 毎年, 登録は更新されている。

[SSB 役員] (SSB HP)

General Members: Ajaya Dixit, Dr Bandita Sijapati, Basanta Thapa, Deepak Thapa, Dipak Gyawali, Dyuti Baral, Dr George Varughese, Hari Sharma, Kanak Mani Dixit, Mohan Mainali, Prof Nirmal Man Tuladhar, Prakriti KC, Dr Pratyoush Onta, Dr Rajendra Pradhan, Dr Sudhindra Sharma,

Executive Committee: Prof Nirmal Man Tuladhar (Chair), Basanta Thapa (Vice-Chair), Dr Sudhindra Sharma (General Secretary), Mohan Mainali (Treasurer), Dipak Gyawali (Member), Kanak Mani Dixit (Member)

以上が, SSB の概要。CIAA は, この SSB に多数の不正があるとして告発したことを, 9 月 25 日発表した。この告発発表は, 内外に波紋を広げ, 特に学術研究や NGO 活動の分野で危惧の念が高まっている。

Social Science Baha

www.soscbaaha.org/ このページ ■最近警告が付けられた SSB の HP

- *1 “CIAA seeks action against Social Science Baha, Alliance for Social Dialogue,” The Himalayan Times, September 25, 2016
- *2 “Social Science Baha accuses CIAA of breaching jurisdiction,” The Himalayan Times, September 30, 2016
- *3 “Social Science Baha refutes CIAA charges,” Kathmandu Post, Sep 30, 2016
- *4 “Social Science Baha claims CIAA misinterpreted facts,” Republica, October 1, 2016

谷川昌幸 (C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/07 at 18:27

カテゴリ: [政治](#), [教育](#), [文化](#), [民主主義](#)

Tagged with [ASD](#), [CIAA](#), [Dixit](#), [Himal](#), [NGO](#), [SSB](#)

HMIHS 法案撤回, ゴビンダ医師ハンストを受け

ガガン・タバ保健大臣が 9 月 29 日, 「マンモハン記念保健インスティテュート (MMIHS) 法案」の撤回を閣議決定した, と発表した。また, これと関連する医療制度・医科教育改革諸法令が成立するまで, 医科大学 (カレッジ) は認可されないことになった。

これらは, 医療制度・医科教育の抜本改革を求め 9 月 26 日から 9 回目のハンストに入っているゴビンダ・KC 医師 (TUTH) が, 一貫して強く要求してきたことだ。

ハンストは、ネパールではやはり政治的に有効な闘争手段のようだ。先日、ガンガマヤがハンストで要求してきた、マオイストによる息子虐殺事件の裁判も、ルンビニ地裁で再開されている。

谷川昌幸

Written by Tanigawa [編集](#)

2016/10/02 at 13:14

カテゴリ: [司法](#), [教育](#), [民主主義](#), [人権](#)

Tagged with [ハンスト](#), [医療](#), [医学部](#)